

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 個別の指導計画の充実と授業研究等とおしての授業力の向上	① 新たな個別の指導計画の様式を基に児童生徒一人一人の実態ならびに本人・保護者の教育的ニーズを把握し、実践を通して個別の指導計画の充実を図る。	教務課	昨年度末に個別の指導計画の様式の検討を行い、新たな様式を作成した。これを機に各教職員が個々の児童生徒の学習内容や指導方法等を見直し、よりきめ細かな指導（支援）体制をとろうという意識の向上を図る必要がある。	【努力指標】 個別の指導計画に基づいた授業を計画し、個々の児童生徒の教育的ニーズに応じた授業を実践している。	個別の指導計画に基づき、個々の児童生徒の教育的ニーズに応じた授業を A：十分実践している B：おおむね実践している C：あまり実践できていない D：ほとんど実践できていない	A+Bの割合が7割未満であれば、取り組み方法を再検討する。	9月と1月に教職員を対象にアンケート調査を実施
	② 全教員が一人1 研究授業の実践を目指し、授業研究をおして個々の教職員の授業力の向上と専門性の向上を図る。	研究推進委員会	昨年度は研究授業の実施回数が少なく、授業改善につながる授業研究を十分行うことができなかった。本校では児童生徒の障害の種類や程度が多様であり、教員の専門性の向上が必要である。	【努力指標】 全教員が自発的に研究授業を行う。	研究授業を行った教員は A：全員 B：8割以上全員未満 C：6割以上8割未満 D：6割未満	C以下の場合、授業研究のあり方を再検討する。	
	③ 授業参観日等に保護者にアンケート調査を実施し、調査結果を日々の授業等に生かす。	教務課	昨年度は授業や教員の専門性に関して、保護者に年1回しかアンケート調査を実施しなかった。保護者によるアンケート調査結果を日々の授業等に反映させる必要がある。	【満足度指標】 担任または授業担当教員の授業や専門性に満足している。	授業や教員の専門性に関して、保護者は A：十分満足 B：おおむね満足 C：あまり満足していない D：ほとんど満足していない	A+Bの割合が7割未満であれば、授業内容や校内研修を検討する。	保護者にアンケート調査を実施
2 地域の資源を活用した計画的な教育活動の推進と地域との交流	① 地域の高齢者団体「ほのぼの会」と定期的に軽体操を一緒にに行い、交流する。	小学部	これまで地域の方々との交流は、本地区の方々との花の植栽活動を年一回行っているだけである。	【満足度指標】 軽体操を一緒に行うことで、楽しみながら交流できている。	軽体操を一緒に行うことで、児童や「ほのぼの会」の方々 A：十分満足 B：おおむね満足 C：あまり満足していない D：ほとんど満足していない	A+Bの割合が7割未満であれば、活動内容等を検討する。	児童・保護者、「ほのぼの会」会員にアンケート調査を実施
	② 高等部作業学習や総合的な学習の時間などで、地域をフィールドとした学習を展開し、地域の中で本校に対する理解者を増やせるような指導計画や指導形態、支援方法を探求する。	中・高等部	開校時から地域との関わりを取り入れた学習指導を進めているが、まだ十分とはいえない。今年度はさらに校外での活動範囲を広げながら、効果的で生徒にとっても学びが深い学習活動を模索していく必要がある。	【満足度指標】 地域における学習活動を通して、地域の方々へ特別支援学校に対する理解や生徒の就労に関する協力が得られる。	地域における学習活動に関して、地域の方々 A：十分満足 B：おおむね満足 C：あまり満足できなかった D：ほとんど満足できなかった	A+Bの割合が7割未満であれば、学習内容及び方法を再検討する。	実施後に地域の方々にアンケート調査を実施

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 早期教育相談及び専門相談の充実と関係機関との連携の強化	① 早期教育相談の対象者に、アセスメントの結果を活かした個別の教育支援計画を作成する。	教育相談課	昨年度より来校相談者にアセスメントを実施している。その結果を活かして個別の教育支援計画を作成することで、より充実した支援が可能となると思われる。	【満足度指標】 教育相談室での相談・支援内容に満足している。	相談室での相談内容に A：全員が満足 B：8割以上全員未達が満足 C：6割以上8割未達が満足 D：6割未達が満足	C以下であれば相談・支援内容及び方法を再検討する。	9月と12月に対象児の保護者へのアンケート調査を実施
	② 専門相談活動や連携支援会議をとおして、支援関係者が情報を共有するための基盤づくりを行う。	教育相談課	支援に必要な情報を複数機関で共有するための連携支援会議のニーズが高まっている。昨年度は専門相談員が個々のニーズに対応してきたが、地域における連携支援体制を整える必要がある。	【満足度指標】 専門相談活動や連携支援会議に満足している。	専門相談員の相談内容や連携支援会議の内容に A：全員が満足 B：8割以上全員未達が満足 C：6割以上8割未達が満足 D：6割未達が満足	C以下であれば相談・支援内容及び方法を再検討する。	9月と12月に相談者、関係機関担当者へのアンケート調査を実施
4 キャリア教育の推進と進路指導の充実	① ハローワークの協力を得ながら、珠洲市・能登町・輪島市の企業を回り、新たな職場開拓を行う。	進路指導課	職場実習やわく・ワーク体験の実習協力企業が極めて少ないのが現状であり、昨年度より1名増えた進路指導課員3名全員で新たな職場開拓を行う必要がある。	【成果指標】 新たな実習協力企業が増える。	新たに開拓した実習協力企業は A：3箇所以上 B：2箇所 C：1箇所 D：0	C以下であれば、職場開拓の方法を再検討する。	
	② 学部・学級だよりや連絡帳、保護者懇談等をとおして、保護者の協力を得ながら、家庭でお手伝いをする児童生徒の割合を高める。	生徒指導課 保健課	学校では毎日清掃指導をしているが、家庭で掃除や洗濯、食器洗い等の簡単な手伝いをしている児童生徒は少ない。	【成果指標】 家庭でお手伝いをする児童生徒の割合が増える。	家庭でお手伝いをする児童生徒の割合が A：7割以上 B：6割以上7割未満 C：5割以上6割未満 D：5割未満	C以下であれば、児童生徒への指導内容や方法、保護者への協力依頼の方法を再検討する。	9月と1月に保護者へのアンケート調査を実施
	③ キャリア教育と進路指導に関する理解を深めるため、全校の保護者を対象に進路だよりや担任からの連絡等をとおして、「進路指導研修会」への参加を促す。	進路指導課	毎年、「進路指導研修会」を実施しているが、昨年度の進路指導研修会での保護者の参加率は全体で50%しかなかった。	【成果指標】 「進路指導研修会」に参加する保護者の割合が高まる。	「進路指導研修会」に参加する保護者の割合が A：7割以上 B：6割以上7割未満 C：5割以上6割未満 D：5割未満	C以下であれば、「進路指導研修会」の内容及び保護者への参加呼びかけの方法を再検討する。	